

「新聞に親しもう」

－新聞から、社会に関心を持つ－

茨木市立東奈良小学校 校長 川上 隆

1. はじめに

本校は、今年度がN I E実践の1年目である。そこで、「新聞に親しもう」をテーマに様々な活動を考えてみた。とは言え、スマートフォン等、情報機器が普及・浸透する便利さの中で育った世代の保護者も多く、活字離れの影響か新聞を取っていない家庭もあり、新聞を読んだり広げたりする習慣や家族で話し合う機会が少ない子どもたちは多い。そんな子どもたちにとって新聞は身近な存在ではなく、なかなか手にする機会もない。

そこで、初年度は「いかにして新聞を見てもらうか」「いかにして新聞の面白さを知ってもらおうか」ということからスタートした。担当者としては、教職員へのN I E教育の発信、様々な新聞記事の配布、ワークシートの回覧を、児童・保護者へは新聞記事を活用した校長室だより（ひがしなら通心）の発行等を行った。また、5学年（3クラス）が、2学期から国語や総合の時間に、提供していただいた5社（朝日と朝日小学生・毎日と毎日小学生・読売と読売 KODOMO・日経・産経）の新聞を使った「N I E学習」に積極的に取り組んだ。以下にその実践を報告する。

2. 実践の概要

*「新聞への親しみを定着させるために」

○「N I E掲示板」の設置

夏休み中、戦争に関する記事を数紙から集めた。主に広島・長崎の原爆忌や終戦に関する記事であった。それを空いている掲示板（保健室前の2カ所と会議室前の1カ所）に広島・長崎・終戦と分けて掲示し、2学期の始業式に子どもたちに呼びかけた。担当者が若かった頃、行っていた夏休み中の「平和登校」もなくなり、戦争について考える「平和学習」の一助にでもなればと思い実施した。また、校長室だよりでも広島原爆忌でのこども代表の「平和への誓い」の記事を扱った。



<戦争に関する記事を読む子どもたち>

校長室だより（年間目標50号以上）では、意識して新聞の教育関係を中心として時事ニュースを取り上げるようにしている。今年度取り上げた記事は、「自己肯定感に関すること」、「新聞購読と学力の関係」、「SNSへの注意」、「本庶佑さんのノーベル賞受賞」、「新聞週間」、「阪神大震災での

はるかひまわり」等である。保護者にも知らせることで、啓発と共に家庭での話題の材料になってくれればと願っている。

***教師の「新聞力」を高めるために**

○新聞記事の配布、読売ワークシート通信・よみとき新聞ワークシートの回覧

本校では、読売新聞を購読している。教育関係の記事が充実しており、「学ぶ育む」や「新聞@スクール」は教職員の参考資料として印刷して配布している。毎朝、出勤したら新聞をチェックして、配布する記事を探すのが担当者の日課となっている。また、毎週水曜日に配信される「読売ワークシート」と毎週木曜日に配信される「よみとき新聞ワークシート」(理想科学工業株式会社)は、必ずカラー印刷して回覧し、情報提供している。その中から活用できる資料を教職員が選択し、利用している。

ほかにもNIEガイドブックの回覧やワークシート通信のバックナンバーを常備する等、NIEの取組みを行うにあたっての教職員側の意識を高める取組みを続けている。

***5学年での「NIE学習」の取組み**

○NIE利用計画案

2学期に入り、9・10月の2ヶ月間、前述5社の新聞をご提供いただき、以下の計画で進めた。

☆ 第1週目

- ・新聞を手にとってみよう。－ひとりで新聞を見る経験をする。
－新聞に掲載されている記事の多様さに気づく。

☆ 第2週目

- ・気になった記事を切り抜こう。－見出し、写真、単語、どれを取り上げてもいいことにする。
－気になった理由を書き添え、発表できるようにする。

☆ 第3週目

- ・選んだ記事を紹介しあおう。
－自分と同じ分野に興味を持った友だちや、全く違う分野を取り上げた友だちの紹介を聞いて、視野を拓けられるようにする。

☆ 第4週目

- ・記事を比べてみよう。－自分が選んだ記事と関連のある記事を探し、見比べる。
同じ日の他紙、同紙の前後の日付の記事等
－読みやすさ、わかりやすさ、読者の目を引く手立てなどに着目する。

☆ 第5週目

- ・記事を比べてわかったことや思ったこと、考えたことなどをまとめてみよう。
－今後、新聞からどのように情報を得ていくかも併せて考える。

※ これに加えて

- ・9月上旬、台風・地震と大きな出来事が続いたので、その記事を読む取組みを挿入した。
－子どもたちにとって身近な出来事だったので、興味を持って取組めた。記事本文は難しく読み切れないこともあったが、見出し・写真・図などを手がかりに読み取っていた。これら(見出し・写真・図)が、重要な役割であることも理解できた。

<新聞記事を選ぶ>



<興味ある記事をまとめる>



<発表しあう>



<クラスや学年のN I Eコーナーと個人ファイル>



○その他の取組み

N I E 学習を通して、新聞に興味を持ち始め身近なものとして感じてきた子どもたちは、秋の校外学習で朝日新聞本社の社会見学に行かせていただいた。また、学年として朝日新聞「声」欄 投稿シートにも取組み、12月7日（金）の朝刊に児童の投稿を載せていただいた。3学期には、国際理解・人権学習の一環として、本校担当の毎日新聞社の方に出前授業を実施していただいた。

新聞から様々な言葉に出会い、語彙力や豊かな感性が育てられることで「言語能力の育成」にもつながり、新学習指導要領の総則にある「主体的・対話的で深い学び」も可能になるのではと考える。



新聞をがんばって読むと…

小学生 池田 梨紗
(大阪府 11)

新聞って、子どもが読むイメージが全然ありませんでした。でも、ちょっとがんばって読むと読者になれます。とっても楽しいし、情報も知識も得ることが出来ます。新聞が好きになりました。家のポストを開けて「何だ、また新聞か」と思っていたけど、たくさんの方が関わっている新聞を、配達の人が大事にとどけてくれていることに感謝したいです。

読者の役目も見つけました。新聞をパラパラめくるだけじゃなく、住んでいる地域のことや習い事のことなど、自分のきょう味をさがすのも良いなと思います。「子どもの色々な問題なんか解決しない」って大人が言っても、社説でちがう大人の見解も聞けるし、コラムで解決方法が見つかるかもしれません。新聞のえいきょう力で世の中を変えることもできるんじゃないかと思います。新聞を読む人が増えてほしいです。

3. 考察

子どもたちがいかに新聞を身近に感じるか、これには家庭環境と共に教師側の働きかけも大切である。学校での話題を子どもたちは家庭で保護者に話す。学校の出来事以外にも社会の出来事、話題のニュースが家庭で話されるようになれば、子どもたちの社会への関心は一気に高まるであろう。

教員が新聞の面白さを伝え、授業でそのような話題を出すことが、子どもたちを社会に近づける一歩になると考える。

4. 成果と課題

新聞に親しむのは家庭での習慣づけが第一である。しかし、習慣づけのための学校からの働きかけも重要になってくる。今回の取り組みを5年担当教員達は、やる前は不安だったが、始めてみると子どもたちと共にわくわく感を持って進めることができ、やってよかったと感じている。子どもたちも新聞に対して

好印象を抱き始めている者が多い。よって、日常的に新聞の話題を授業に組み込むような仕掛けや教員の意識付けが必要である。「言語能力の育成」のためにも、学校がN I Eの取り組みを積極的に実施していき、本校が研究している「書く力の育成」につなげることが今後(2年目)の課題である。

記者と 学校交流

説明した。

毎日新聞と毎日新聞
社会事業団による「世
界子ども救援キャンペ
ーン」は今年、41年目
を迎えた。この日の授
業では、キャンペーン
取材班が昨年8月に訪
れたイラクの現状につ
いて、写真や動画を使
って紹介した。過激派
組織「イスラム国」(I
S)の暴力にさらされ
た現地の子どもたちにつ

イラクの子供現状紹介
茨木・東奈良小で出前授業



いて、児童らは「どうやって生活しているのか」「どんな食べ物を食べているのか」など、次々と質問した。福田記者は、親戚同士で助け合っている現状を説明し、最後に「みなさんがイラクの現状に関心を持つことが、現地の子どもたちの勇気につながる。今日聞いた話を、是非、家族や友達にも伝えてください」と語りかけた。

毎日新聞朝刊
1月24日(木)